

第9部 国立情報学研究所メタデータ語彙集

1 . 国立情報学研究所メタデータ語彙集について	2 p
1 . 1 主題語彙集	2-6p
1 . 2 時代語彙集	6-7p
1 . 3 地理語彙集	8-10p
1 . 4 資源タイプ語彙集	10-11p
2 . 適用の手引き	
NII メタデータ語彙付与例	12 p
例 1	12p
例 2	13p
例 3	14 p
例 4	15 p
例 5	16 p
例 6	17 p
例 7	18 p
例 8	19 p
例 9	20 p
(付録)	
国立情報学研究所メタデータ地理語彙集の地域名に関して	21-22p

1．国立情報学研究所メタデータ語彙集について

国立情報学研究所メタデータ語彙集は、国立情報学研究所メタデータ・データベース共同構築事業における統制語彙として用いる語彙集である。

本語彙集は、リソースの主題を示す主題語彙集、時間的特性を示す時代語彙集、空間的特性を示す地理語彙集、資源ジャンルを示す資源タイプ語彙集からなり、NII メタデータ記述要素においてそれぞれ Subject, Coverage (Temporal), Coverage (Spatial), Type の語彙として適用される。

本語彙集は「ネットワーク情報資源のメタデータ・データベース（仮称）の協同構築に関する小委員会」（平成 14～15 年度）及び国立情報学研究所開発・事業部コンテンツ課により作成された。

1.1 主題語彙集

リソースの主題を示すために、NII メタデータ記述要素の Subject エLEMENT の値として使用する。2 階層をとる。

第一階層は全学問分野を網羅することを意図した体系であるが、第二階層は必ずしも属する第一階層の全領域をカバーするものではない。語彙付与にあたっては、次の要領で行うものとする。

[付与要領]

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">a) 複数の主題を扱っている場合は、その上位語彙を付与する。
(例) 広く政治、経済、社会情勢を扱った情報資源 → 「社会科学」を付与b) 広く全分野を扱ったリソースの場合、第ゼロ階層の「全般」を付与する。
(例) 一般図書館の OPAC や蔵書目録、または総合博物館のトップページなどのリソースc) リソースの内容が、ある語彙に相当する場合、その語彙の上位語彙や下位語彙は付与しない。
(例) 医学全般に関するリソース → 「医学」を付与する。下位語彙の「内科系臨床医学」等や上位語彙の「生命科学」は付与しない。d) 両属語彙(下記参照)を付与する場合、上位語彙を特定して付与する必要はない。
(例) 「昆虫の生物学」に関するリソース → 「生物学」を付与する。「自然科学」を付与する必要はないe) 語彙的に第 2 階層に相当するが、その語句が主題語彙にない場合、上位語彙を付与する。
(例) 「書誌学」に関するリソース → 「人文科学」を付与 |
|---|

また、一部の下層語彙は、メタデータ検索のための主題ディレクトリ上、複数の上層語彙に属する。例えば、「美学・芸術学」は「人文科学」「芸術」の双方の下層に関連付けられている。これにより、「美学・芸術学」を与えられたメタデータは、「人文科学>美学・芸術学」「芸術>美学・芸術学」の 2 通りの筋道により、アクセスが可能となる。複数の上層語彙に属する語彙を『ディレクトリ上の表現（両属語彙）』に示す。

語彙 (第 ゼ 口 階 層)	語彙(第一 階層)	語彙(第二階層)	語彙(第三階層)	ディレクト リ上の表現 (両属語彙)	備考
全般	人文科学	哲学・倫理学			
		宗教			
		心理学		生命科学に も複出	
		美学・芸術学		芸術にも複 出	
		歴史学			
		考古学			
		民族学			
		文化人類学・民俗学			
		地理学・地誌		自然科学に も複出	
		言語学			
		文学		芸術にも複 出	
	社会科学	政治・行政			
		法律・法律学			
		経済学			
		ビジネス・経営・産業			
		社会・文化			
		教育・教育学			
		軍事			
		運輸・交通			
		環境学		自然科学,工 学,農学にも 複出	
		メディア・コミュニ ケーション		情報・メディ ア・コミュニ ケーション にも複出	
		厚生・福祉		生活・家庭に も複出	

	芸術	美学・芸術学		人文科学にも複出	
		文学		人文科学にも複出	
		建築学		工学にも複出	
		美術			絵画，彫刻等
		音楽			
		演劇			
		映画・テレビ			
		諸芸			茶道・花道・伝統芸能等
		漫画			
	自然科学	数学			
		物理学			
		化学			
		天文学			
		地球惑星科学			
		生物学		生命科学，農学にも複出	分子生物学を含む
		地理学・地誌		人文科学にも複出	
		自然人類学			
		環境学		社会科学，工学，農学にも複出	
	生命科学	医学	基礎医学		
			社会医学		医療社会学，法医学等
			内科系臨床医学		
			外科系臨床医学		
		歯学			

		薬学			
		看護学			
		心理学		人文科学にも複出	
		獣医学		農学にも複出	
		生物学		自然科学，農学にも複出	分子生物学を含む
		ゲノム科学			
	農学	農学			
		農芸化学			
		林学			
		水産学			
		農業工学			
		畜産学			
		獣医学		生命科学にも複出	
		環境学		社会科学，自然科学，工学にも複出	
		生物学		自然科学，生命科学にも複出	分子生物学を含む
	工学	基礎工学・応用物理学			
		機械工学			
		電気電子工学			通信工学を含む
		土木工学			
		建築学		芸術にも複出	
		材料工学			
		プロセス工学・化学工学			
		航空工学			
		船舶・海洋工学			
		エネルギー工学			

		ナノテクノロジー			
		情報学		情報・メディア・コミュニケーションにも複出	
		環境学		社会科学，自然科学，農学にも複出	
	情報・メディア・コミュニケーション	情報学		工学にも複出	
		メディア・コミュニケーション		社会科学にも複出	
	生活・家庭	厚生・福祉		社会科学にも複出	
		家政学・生活科学			
		習俗			
		趣味・娯楽			
		健康・スポーツ科学			

1.2 時代語彙集

リソースの時間的特性を示すために，NII メタデータ記述要素の Coverage エlement (Temporal) の値として使用する。2 階層をとる。

リソースの特性に応じ，日本の歴史区分，一般的な歴史区分，世紀の各第二階層語彙のうちから適切な語彙を与えるものとする。第一階層は便宜上設けてある区分であり，これそのものは時代語彙としては用いない。また，第二階層は必ずしも属する第一階層の全領域をカバーしない。語彙付与にあたっては，次の要領で行うものとする。

[付与要領]

- アクセスの便のため，必要に応じ複数の区分をまたがって複数付与するのが望ましい。
(例) 「奈良時代」+「平安時代」+「古代」
- リソースの内容の西暦年等，年代がはっきりわかる場合，「世紀」語彙は必ず付与する。
(例) ベルリンの壁崩壊に関するリソース → 「20 世紀」を付与する。また，「一般」語彙の「現代」も付与するのが望ましい
- リソースの時間的特性として大まかな対象年代（中世もしくは近代など）は判別できるものの，明確な年代（「○○世紀の出来事」，「西暦○○年の事件」など）がわからない，もしくは特定できない場合，「一般」語彙から最も適当と思われるものを付与する。
(例) 近代美術を扱うリソース → 「近代」を付与

(第一階層)	語彙 (第二階層)	備考
日本	原始時代・旧石器時代	
	縄文時代・弥生時代	
	古墳時代・飛鳥時代	
	奈良時代	
	平安時代	
	鎌倉時代・南北朝時代	
	室町時代	
	戦国時代	
	安土桃山時代	
	江戸時代	
	幕末・明治維新	
	明治時代	
	大正時代	
	昭和初期～終戦	
	昭和戦後～現在	
一般	原始	
	古代	
	中世	
	近世	
	近代	
	現代	
世紀	5 世紀以前	
	6 世紀	
	7 世紀	
	： (この間 , 各世紀)	
	20 世紀	
	21 世紀	

1.3 地理語彙集

リソースの空間的特性を示すために、NII メタデータ記述要素の Coverage エlement (Spatial) の値として使用する。3 階層をとる。語彙付与にあたっては、次の要領で行うものとする。

[付与要領]

- a) リソースの内容が複数の地域にまたがる場合、上位階層の語彙を付与してもよい。
(例) 青森、岩手、宮城、秋田、山形 5 県を扱うリソース → 「青森」「岩手」「宮城」「秋田」「山形」を与える。さらに「東北」を与えてもよい。
- b) リソースの地理語句が、地理語彙に一致する場合、その地理語彙のみを付与する。
(例) タイの観光業に関するリソース → 「タイ」を付与する。「東南アジア」は付与しない。
(例) 東南アジアの経済発展を扱うリソース → 「東南アジア」を付与する。「タイ」「インドネシア」「ベトナム」「フィリピン」など各国名の語彙は付与しない。
- c) リソースが地域研究的な性質を表明していない場合でも、判断により地理語彙を付与してもよい。
(例) 憲法概論のリソース (とりあげているのが日本の現行憲法であるとき) → 「日本」
- d) リソースの内容の地理的範囲が地理語彙に一致しない場合、該当する地域を含む地理的に最小の地理語彙を付与する。但し、第 2 階層の「環太平洋地域」は例外とし、環太平洋地域全体 (例: APEC) に関わるリソースに対してのみこれを付与する。
(例) 北朝鮮に関するリソース → 「朝鮮半島」を付与する。「東アジア」を付与する必要はない。
(例) カナダに関するリソース → 「北米」を付与。
- e) リソースが組織のトップページである場合には、その組織が所在する国や地域を語彙集から選ぶが、そのリソースの研究対象が地理的特性を持つ場合、その地理語彙も付与する。
(例) 東京にある科学技術博物館のリソース → 「東京」を付与する。
(例) 東京にあるフランス文学館のリソース → 「フランス」「東京」を付与する。

語彙 (第一階層)	語彙 (第二階層)	語彙 (第三階層)	備考
日本	北海道		
	東北	(右記各県)	青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
	関東	(右記各都県)	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
	北陸	(右記各県)	新潟、富山、石川、福井
	中部	(右記各県)	山梨、長野、岐阜、静岡、愛知、三重
	近畿	(右記各府県)	滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
	中国	(右記各県)	鳥取、島根、岡山、広島、山口
	四国	(右記各県)	徳島、香川、愛媛、高知

	九州	(右記各県)	福岡 , 佐賀 , 長崎 , 熊本 , 大分 , 宮崎 , 鹿児島
	沖縄		
海外	アジア	東アジア	
		東南アジア	
		南アジア	
		中東地域	
		朝鮮半島	
		環太平洋地域	北米 , 中南米 , オセアニアにも複 出
		中華人民共和国	
		韓国	
		タイ	
		インド	
		インドネシア	
		ベトナム	
		モンゴル	
		ネパール	
		フィリピン	
		台湾	
		バングラデシュ	
		ミャンマー	
		マレーシア	
		シンガポール	
		イラン	
		シリア	
	ヨーロッパ	西欧	
		東欧	
		イギリス	
		ドイツ	
		フランス	
		ロシア	
		ギリシャ	
		イタリア	
		スウェーデン	
		スペイン	
		ポーランド	
	アフリカ	エジプト	

	北米	環太平洋地域	アジア，中南米，オセアニアにも複出
		アメリカ合衆国	
	中南米	環太平洋地域	アジア，北米，オセアニアにも複出
		ブラジル	
		メキシコ	
	オセアニア	環太平洋地域	アジア，北米，中南米にも複出
		オーストラリア	
	南極・北極		
	海洋・宇宙		

1.4 資源タイプ語彙集

リソースの資源のジャンル・特性を示すために，NII メタデータ記述要素の Type エLEMENTの値として使用する。2 階層をとる。第一階層は便宜上設けてある区分であり，これ単独で資源タイプ語彙としては用いない。

(第一階層)	語彙 (第二階層)	備考
研究成果	論文	
	論文以外	
研究成果リスト	逐次刊行物	
	論文リスト	
	プロジェクト関連情報	
	講演会等	
研究資源	データ	
	ソフトウェア	
	電子的辞書等	
研究者情報	個人のページ	
	研究室トップページ	
	研究者情報リスト	
	研究者情報データベース	
教育情報	講義情報リスト	
	電子教材リスト	
図書館情報	図書館・室トップページ	
	図書館資料	
デジタルミュージアム		
参考情報	データベース	

	文献目録・文献索引	
	リンク集・電子ジャーナル集	
	メーリングリスト	
	OPAC	
広報資料	機関トップページ	
	下部組織トップページ	
	機関広報資料	

2. 適用の手引き

国立情報学研究所メタデータ語彙(以下、NII メタデータ語彙という。)のうち、主題語彙、地理語彙、および時代語彙を、メタデータに付与する際の留意点および作成例を説明する。

(留意点)

(1) 適切な語彙の付与

リソースの内容に対し、適切な NII メタデータ語彙をできるだけ多く、漏れなく付与することが望ましい。語彙付与の詳細については、主題、時代、地理語彙の「付与要領」を参照すること。また、利用者が、そのリソースに対し、どういう語彙からアクセスできたほうがよいか、満足を得られるか、ということも、語彙付与の適切性を判断する基準となる。

(2) 強弱の概念について

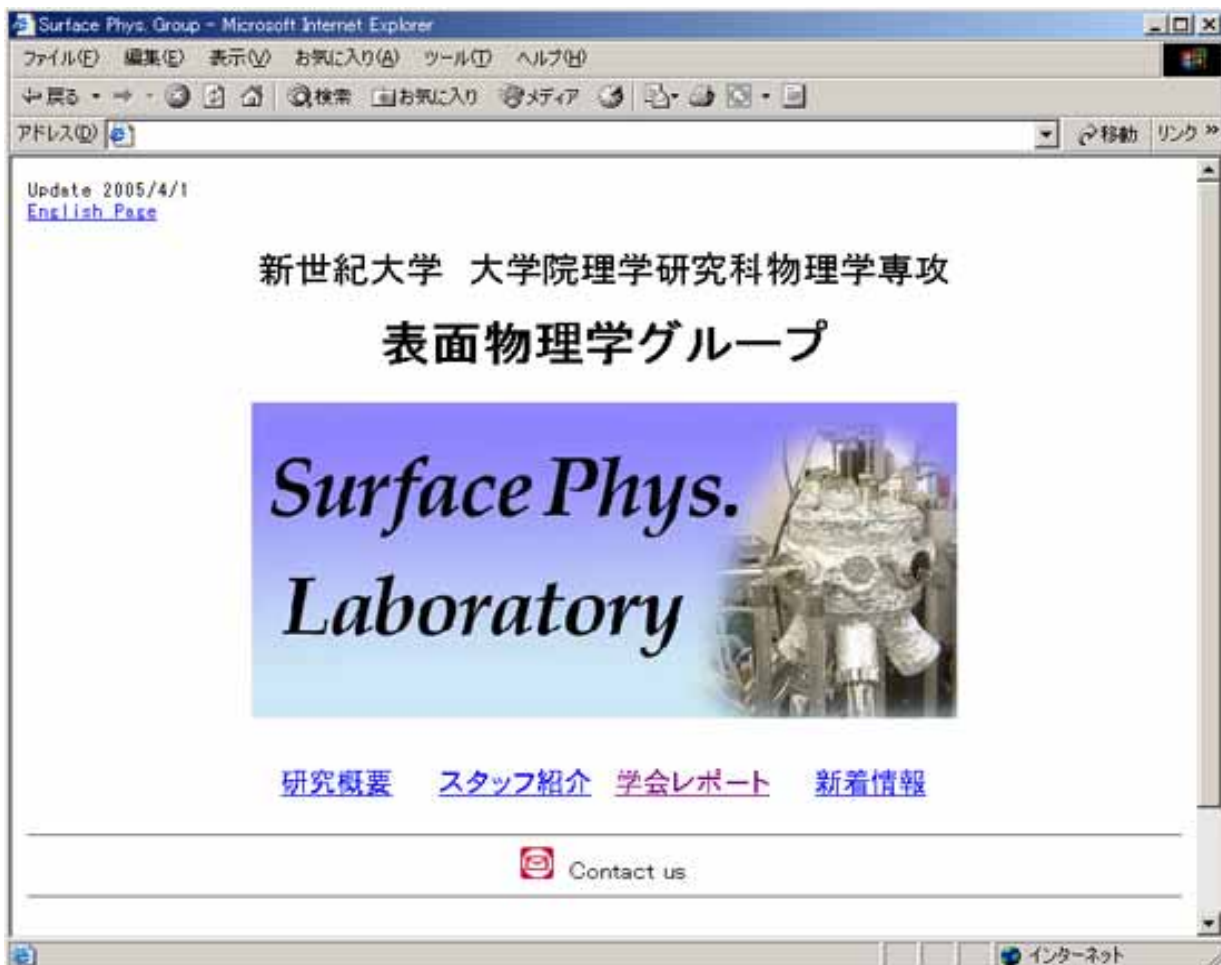
NII メタデータ主題語彙集、地理語彙集、および時代語彙集の語彙をメタデータに付与する場合、付与する語彙とリソースの内容との関連性の強さによって「強」か「弱」をメタデータ作成の登録画面および確認画面上で選択する(第5部13を参照)。「弱」は、リソースの一部に該当する部分がある場合等、付与すべきかどうか判断に迷う場合に用いる。Subject には、主題語彙を一つ以上、「強」として付与しなくてはならない。

(例)「日本美術」を主テーマとしながらも、ごく一部「中国美術」も扱うリソース

→ Subject.NII(強): 美術, Coverage.Spatial.NII(強): 日本, Coverage.Spatial.NII(弱): 中国

(NII メタデータ語彙付与例)

例 1



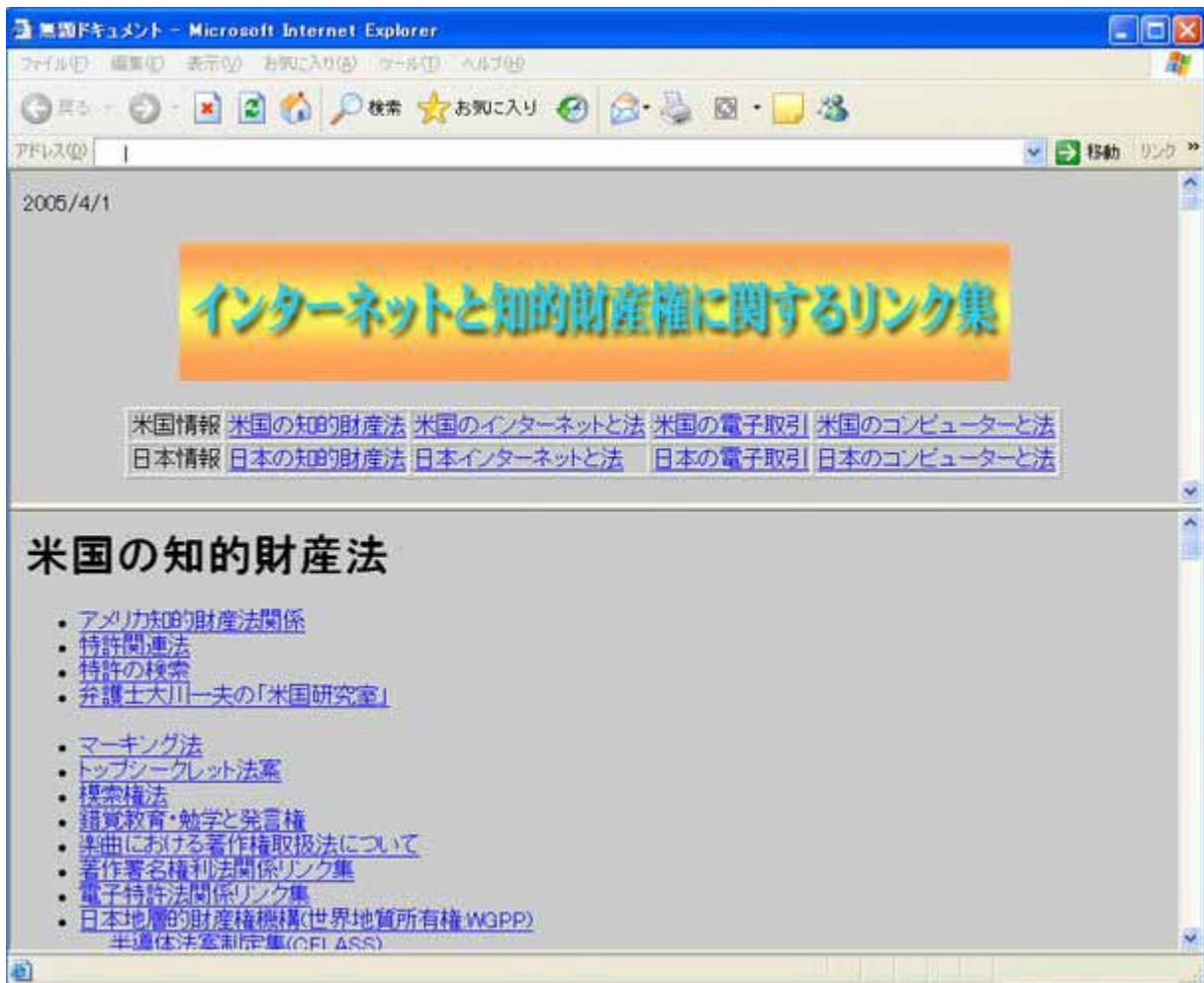
上記は大学の物理学研究室のページである。当ページのみの閲覧でも「物理学」が適切であると判断できるが、実際には工学的な研究が主目的の場合もある。このため、ページ内のリンク（上記ページでは“研究概要”等）を開いてリソースの内容の主題に該当する語彙を付与する。上記の場合ではこの結果「物理学」と共に「基礎工学・応用物理学」も適当であると考えられるため、両方を「強」として付与する。また、日本の大学なので、地理語彙に「強」として「日本」を付与する。所在地の都道府県がわかれば、「日本」（第1階層）の代わりに都道府県単位（第2階層）で地理語彙を付与するのが望ましい。

Subject.NII(強): 物理学

Subject.NII(強): 基礎工学・応用物理学

Coverage.Spatial.NII(強): 日本

注意：大学のトップページがリソースの場合、「教育・教育学」は必ず付与すること。また、総合大学ではなく、専門大学の場合、「教育・教育学」と共に、その専門分野の語彙も付与する。



これは、インターネットと知的財産権との関係の在り方を研究するために関連リンクを集めたリソースである。基本的な考え方として、知的財産法は、特許と関連が強いので、「法律・法律学」及び「工学」を、インターネットは「メディア・コミュニケーション」をそれぞれ付与する。このように、リンク集としてのリソースに対しては、リンク先のページの内容を検討するのではなく、ページ内のリンクがどのような目的で集められているかを把握する必要がある。また、アメリカと日本の知的財産法を比較しているので、「アメリカ合衆国」と「日本」を強い地理語彙として付与する。

Subject.NII(強): 法律・法律学

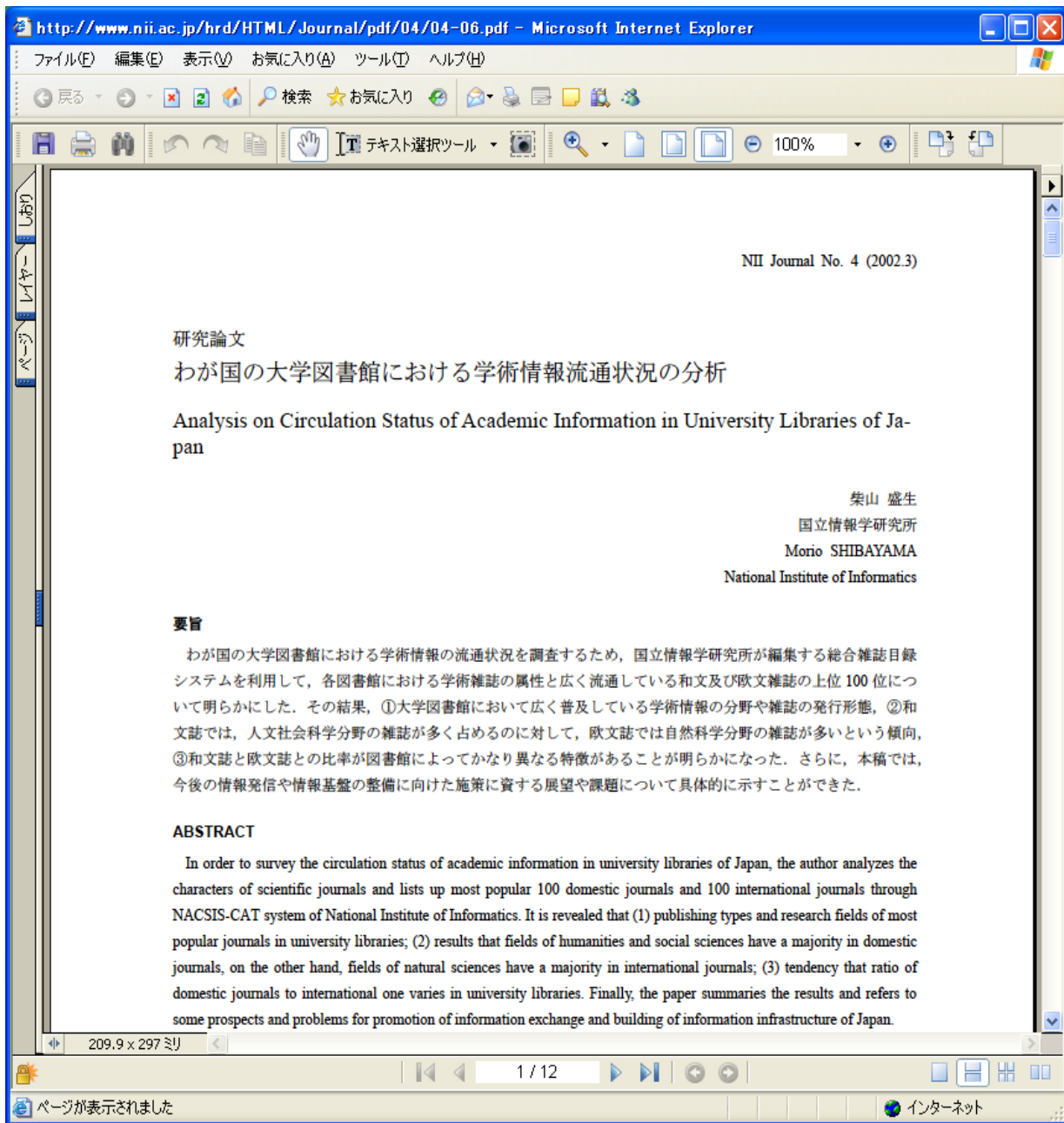
Subject.NII(強): 工学

Subject.NII(強): メディア・コミュニケーション

Coverage.Spatial.NII(強): アメリカ合衆国

Coverage.Spatial.NII(強): 日本

例 3



論文自体がリソースの場合、論文のテーマをリソースの内容の主題として採用する。上記の例は、日本の学術情報の流通を分析した論文である。このように論文全文が掲載されているリソースに対しては、主題を把握するまで内容に目を通す必要がある。

Subject.NII(強)：情報学

Coverage.Spatial.NII(強)：日本

例 4



図書館のトップページの場合，必ず「情報学」は付与する。また，学部図書室のトップページなど，専門分野を持つ組織の図書館・図書室のトップページは，「情報学」と共に，専門分野の語彙も付与する。また，日本の大学であるので，「日本」を地理語彙として付与する。

Subject.NII(強)：情報学

Coverage.Spatial.NII(強)：日本

例 5



データベースがリソースの場合，データベースの対象が何であるかを基準として主題語彙を付与する。上記ページは，主として教育研究に関する情報を提供しているため，「教育・教育学」を付与する。また，学校保健などのデータベースもごく一部記載されているので，「弱」の主題として「厚生・福祉」も付与する。さらに，日本を対象とした教育関連のデータベースを提供しているものと判断されるので，地理語彙として「日本」を付与。

Subject.NII(強)：教育・教育学

Subject.NII(弱)：厚生・福祉

Coverage.Spatial.NII(強)：日本

例 6



上記は大学の実験林のページである。リソースの内容が北海道における林業・林学を取り扱っているため、主題語彙として「林学」、地理語彙としては「北海道」を付与する。

Subject NII(強): 「林学」

Coverage.Spatial.NII(強): 北海道

例 7



上記は古代のオホーツク文化を扱ったリソースで、カバーされる時代は原始時代から近世にまたがる。特に何世紀に重点を置いているわけでもなく、また日本の歴史区分を適用することも難しいため、歴史語彙の「一般」語彙から「原始」、「古代」、「中世」、「近世」の4つを選択する。主題語彙としては「文化人類学・民俗学」が適当。地理語彙としては「北海道」を付与する。

Subject.NII(強)：文化人類学・民俗学

Coverage.Temporal.NII(強)：原始

Coverage.Temporal.NII(強)：古代

Coverage.Temporal.NII(強)：中世

Coverage.Temporal.NII(強)：近世

Coverage.Spatial.NII(強)：北海道

例 8



上記は 1868 年から 1945 年まで、つまり日本における一般的な区分における「近代」に発行された中国に関する日本語図書のデータベースである。リソースの主題が判然としないため、主題語彙として「全般」を付与する。時代語彙として「近代」と共に、関連する年代(1868～1945)が明確なことから「19 世紀」および「20 世紀」の両方を付与する。また、中国関係の図書のデータベースなので、地理語彙として「中華人民共和国」を付与する。

Subject.NII(強)：全般

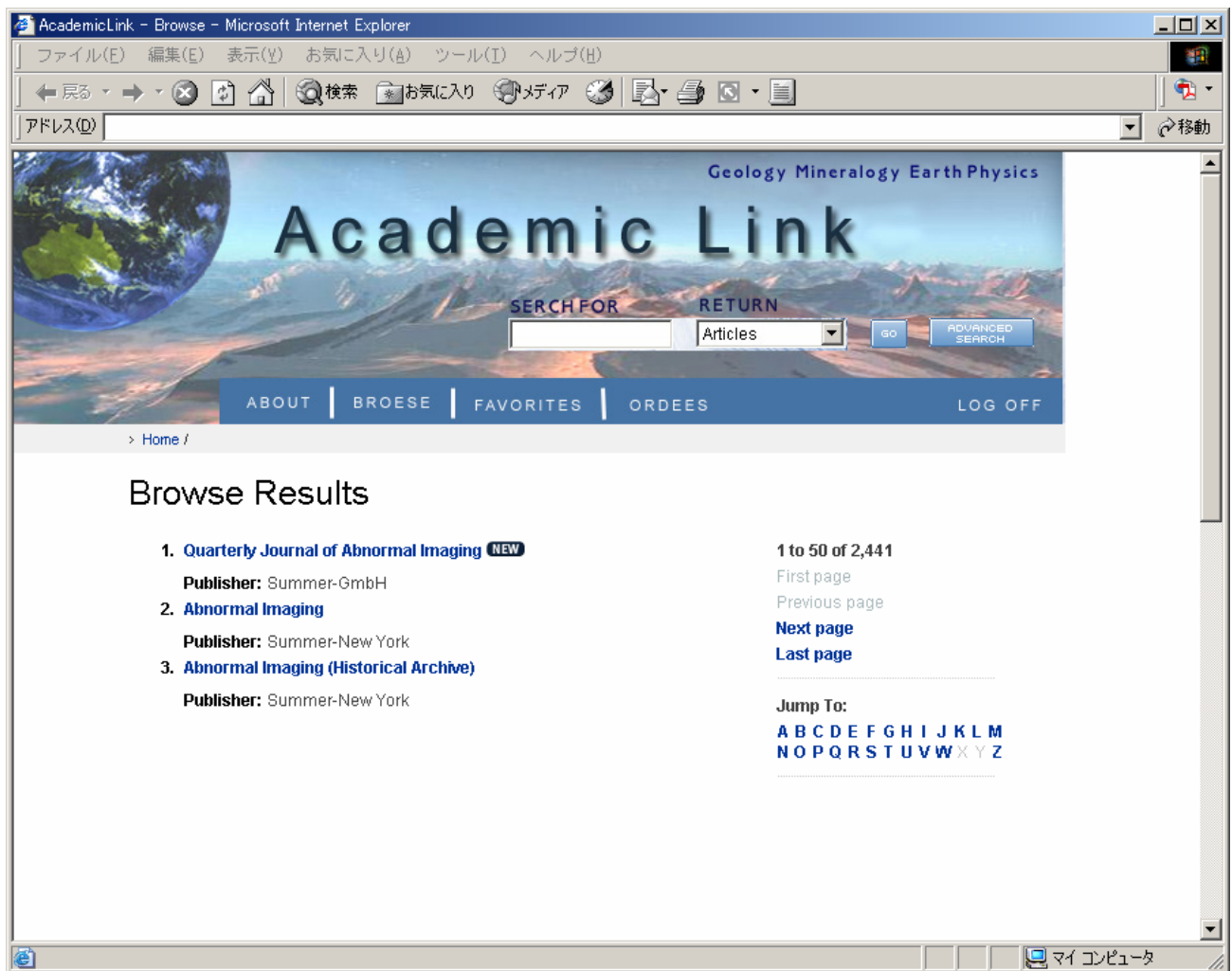
Coverage.Temporal.NII(強)：近代

Coverage.Temporal.NII(強)：19 世紀

Coverage.Temporal.NII(強)：20 世紀

Coverage.Spatial.NII(強)：中華人民共和国

例 9



リソースの右上に「Geology Mineralogy Earth Physics」とあり，ここから「地質学」，「鉱物学」，「地球物理学」を主題と捉えることができる。これらは主題語彙では全て「地球惑星科学」に含まれるので，主題語彙として「地球惑星科学」を付与する。地理語彙および時代語彙を付与しないリソースの一例である。

Subject.NII(強)：地球惑星科学

(付録) 国立情報学研究所メタデータ地理語彙集の地域名に関して

NII メタデータ地理語彙集は全ての国名をリスト化しているわけではないため、記載のない国や地域についてはそれらの属する地域名を地理語彙集から選ぶという作業も必要になる。例えば地理語彙集には「スウェーデン」は存在しても「ノルウェー」はなく、「ポーランド」はあっても「チェコ」はない。地理語彙集に記載のないこういった国や地域については下記に記す規準（表A～D）にしたがって作業を行う。

表A.「西欧」に分類される国々

西欧	アイルランド	ベルギー
	アンドラ	ポルトガル
	オーストリア	マルタ
	オランダ	モナコ
	サンマリノ	リヒテンシュタイン
	スイス	ルクセンブルク
	バチカン市国	

表B.「東欧」に分類される国々

東欧	アルバニア	ブルガリア
	ウクライナ	ベラルーシ
	エストニア	ボスニア・ヘルツェゴビナ
	クロアチア	マケドニア
	スロヴァキア	モルドヴァ
	スロベニア	ラトビア
	セルビア・モンテネグロ	リトアニア
	チェコ	ルーマニア
	ハンガリー	

表C.「中東地域」に分類される国々

中東地域	アフガニスタン	クウェート
	アラブ世界	サウジアラビア
	アラブ首長国連邦	トルコ
	イエメン	バーレーン
	イスラエル	パレスチナ
	イラク	ヨルダン
	オマーン	レバノン
	カタール	

表D .「アジア」に分類される国々

アジア	アゼルバイジャン
	アルメニア
	ウズベキスタン
	カザフスタン
	キルギス
	グルジア
	タジキスタン
	トルクメニスタン